

こころもからだもいろいろ、
彩り豊かでええじゃん！



ご支援くださっている皆様、いつもありがとうございます。

一般社団法人 **こころ**hiroshima

活動報告書 2025

いつも応援してくださっている皆様へ

平素より、一般社団法人ここいろhiroshimaの活動を温かく見守り、支えてくださり、誠にありがとうございます。

2018年に任意団体として活動を始めてから8年目となる2025年も、多くの方々のご理解とご協力のもと、ここいろhiroshimaの歩みを続けることができました。改めて、日頃より関わってくださっているすべての皆様に、心より感謝申し上げます。

2025年は、団体としての歩みを大切に重ねながらも、運営体制や関わり方に変化が生まれた一年でもありました。こうした変化の中でも、子どもたちやユース、保護者の方々が安心してつながれる場や相談できる環境を守り、活動を継続できたことは、皆様からの継続的なご支援があってこそだと感じています。

本報告書では、2025年度(2025年1月～12月)の活動内容についてご報告いたします。皆様のご支援が、どのような形で現場に届き、活動として実を結んでいるのかを感じていただける機会となれば幸いです。

今後とも、ここいろhiroshimaの歩みを温かく見守っていただけましたら幸いです。

共同代表理事
當山 敦己
高畑 朔 (2025年12月31日付 退任)

2025年の活動実績

居場所づくり

計14回 計175名

内訳

ここいろ会	4回	計87名(3月:24名、6月:15名、9月:17名、12月:31名)
中高生の会	4回	計51名(1月:12名、4月:14名、7月:13名、10月:12名)
保護者会	4回	計25名(2月:7名、5月:6名、8月:7名、11月:5名)
オープンデイ	2回	計12名(4月4日:6名、8月18日:6名)

ここいろhiroshimaの活動紹介

居場所づくり

活動当初から続けているLGBTQ+(かもしれない人も含む)の子どもたちと保護者のための交流会である「ここいろ会」の他、対象別に開催している「中高生の会」「保護者会」も行っています。長期休みなどには事務所を活用したオープンデイを実施し、安心して過ごせる居場所、ありのままの自分で居られる時間をつくっています。

相談事業

LINEを使って相談ができる「ここいろチャット」と、対面またはオンラインツール(zoom等)での個別相談を実施。相談者のニーズに応じた関わり方で、住んでいる地域に関わらず「安心できるつながり」をつくれるようにサポートしています。

啓発活動

年代や対象に応じた伝え方で「多様な性のあり方や生き方」、「自分らしく生きること」について伝えていきます。「誰もが安心して過ごせる環境づくり」について、一緒に考えていくことを大事にしながら啓発活動に取り組んでいます。



相談事業

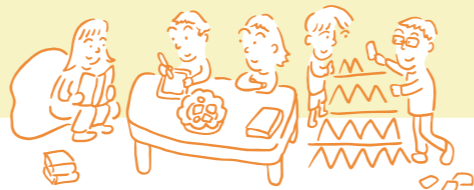
個別相談 3件
SNS相談 161件(1回平均6.4件)
※2025年度25回実施(1回3時間実施)

啓発活動

計33件

内訳
学校:18校
教職員・PTA:9件
行政・地域団体・企業など:6件

居場所づくり



2025年の各交流会について

2025年度は、交流会の開催頻度を見直し、3ヶ月に1度の定期開催(年4回)を基本としながら、毎月1回は必ず何らかの交流の機会が生まれる形で、継続的な居場所づくりに取り組みました。定期開催の交流会に加え、春休み・夏休みなどの長期休みには、事務所を活用したオープンデイを実施し、ユースが自分のタイミングで気軽に立ち寄れる「ひらかれた居場所」を意識した運営も行いました。

～ここいろう会～ 3月・6月・9月・12月に実施/各回2時間

2025年度のここいろう会は、季節の行事を軸にしなが、大人も子どもも立場を越えて「ともに過ごす時間」を大切にしたい交流会を実施しました。活動に参加する・しない、関わり方を自分で選べる雰囲気づくりを心がけ、安心してその場にいられることを何より大切にしました。



2025年3月：進級・卒業お祝い会(室内)

進級や卒業といった節目を迎えたユースを、みんなで祝いする会を開催しました。じゅーしー(沖縄の炊き込みご飯)やソーキそばを作りながら話したり、各ご家庭から一品持ち寄っていただいた料理を囲みながら、「おめでとう」という気持ちを言葉や空気でも分かち合う時間となりました。

2025年6月：外遊び(屋外)

公園での外遊びを中心に、体を動かしたり、のんびり過ごしたりと、それぞれが心地よい過ごし方を選べる会となりました。自然の中で過ごすことで、普段とは違う表情や関わりが生まれる場面も多く見られました。

2025年9月：BBQ(屋外)

火を囲みながら食事をとるとともにBBQを実施しました。役割を自然に分担しながら準備をしたり、お肉を食べながら会話を楽しんだり「同じ時間を共有すること」そのものが安心につながるひとときとなりました。

2025年12月：クリスマス会(室内)

一年の締めくくりとしてクリスマス会を開催しました。ゲームやプレゼント交換を通して、笑顔や笑い声があふれる時間となり、それぞれが一年を無事に過ごせたことをお祝いする場となりました。

～中高生の会～ 1月・4月・7月・10月に実施/各回2時間

2025年度の中高生の会では、同世代だからこそ共有できる悩みや気持ちを、無理に言葉にしなくてもいられる居場所であることを大切にしてきました。事前にアンケートを実施し、当日話したいことや聞きたいことを聞きつつ、運営メンバーと交流会の流れや雰囲気を検討しました。会話やボードゲームを楽しむ時間あれば、静かに過ごす時間も尊重し、それぞれが「ここにいていい」と感じられる空間づくりを意識しました。



進路や学校生活など揺れやすい時期にある中高生にとって、仲間と出会う場として、今後も継続開催を行っていきます。

～保護者会～ 2月・5月・8月・11月に実施/各回2時間

2025年度の保護者会では、「一緒に考え、気持ちをそのまま出せる場」であることを大切にしてきました。運営メンバーとともに交流会の実施や振り返りを行いながら、日々の子育てや関わりの中で感じる戸惑いや不安、喜びを共有し、保護者同士がゆるやかにつながる時間をつくってきました。医療や学校との連携など、具体的な情報を必要とする保護者の方も多く、情報提供や学べる場のニーズがますます高まっていることも感じました。保護者が同じ立場の人と話すことで「ひとりじゃない」と感じ、一緒に考える仲間や必要な情報とつながれる場として、今後も継続していきます。

◇定期開催の各交流会については、2025年度を含むこれまでの活動の様子を、note記事としてまとめています。参加の雰囲気や当日の様子をより具体的に感じていただける内容となっておりますので、ご興味のある方は下記QRコードよりぜひご覧ください。



【ここいろう会】 【中高生の会】 【保護者会】

～オープンデイ～ 春・夏の長期休みに各1回ずつ実施 10:00～16:00の6時間・出入り自由

2025年度のオープンデイは、「予定がなくても行きたい」「何もなくてもいい」居場所として、事務所を開放しました。

決まったプログラムを設けず、ユースが自分のペースで過ごせることを大切に、短時間の滞在や、誰かと話さずに過ごすことも尊重しました。ボードゲームをしたり、学校の課題をしたり、ユースが自らどのように過ごしたいかを考えて選択できる環境づくりを意識しながら、ともに過ごしました。学校がない期間だからこそ孤立しやすい時期に、気軽に立ち寄れる選択肢の一つとして、安心できる居場所づくりを行いました。



進学・就職など人生の門出を迎えたユースの声/保護者の声

2018年から活動開始以来、ここいろうhiroshimaは8年間にわたり、多くのユースと保護者の方々とともに時間を重ねてきました。今回、進学や就職といった人生の節目を迎えたユース、そして我が子の新たな一歩を見守る保護者の方に、ここで過ごした時間や現在の心境についてインタビューを行いました。

ユースインタビュー



○1人目のユース(19歳・バンドマン!)

初めて交流会に参加したのはいつ?

2022年の5月です。

ここいろうの交流会ではどんな風に過ごしてた?

仲良くなったみんなとお話をしたり、わくばくな子供たちと遊んでました笑バンドをやってるのでたまに楽器を持ってきて弾いたりもしていました!

ここいろうのことはどんな風に思ってた?/思ってる?

居場所を作ってくれる場所だと思ってます。忙しくて通えなくなった今でも、何かあった時に頼れる場所だと思っています。

新たな人生の門出に立った今の心境は?

自分の思っていない方向に人生が進んでいくのでびっくりしていることも多いけど、自分なりに全力でやりたいことをやっていこうと思います!

過去の自分に向けて一言メッセージを送るとしたら?

今はもう沢山の居場所があって、ひとりじゃないから安心してほしい。見ている世界だけが全てでは無いんだよってことを伝えたいです。

○2人目のユース(19歳・専門学生)

初めて交流会に参加したのはいつ?

中学一年生。

ここいろうの交流会ではどんな風に過ごしてた?

いろんな人に話しかけたり遊びに誘ったりしていました。一人になるのが怖かったので、積極的に動いてた気がします。

ここいろうのことはどんな風に思ってた?/思ってる?

最初に参加した時は一体どんな場所なんだろうって不安でソワソワしていたけど、毎月のように参加して行って次第にいろんな人と関わる事ができたり、いろんな人とお話のできたので「あ、自分ひとりぼっちじゃないんだ」と気付く瞬間が増えたり、中学生の時にここいろうで友達になった子は今でも連絡取るし一緒に遊びに出掛けたりしてます。

いろんな人と関われる場所だと思ってます!

新たな人生の門出に立った今の心境は?

去年の春から服飾の専門学校に通っています。同じワードを重ねて綴りますが、そこでは本当「いろんな人」と関わるようになりました。それこそ、ファッションを大事にしてる人達なので個性も強い人が多いし自我の強い若者がいっぱい居ます笑

中学生の時、私実は不登校だったので、話す人や関わる人っていうのはここいろうの人達がメインでした。

なので人と話すことのハードルを良い意味で下げてくれたのはここいろうです。いつもありがとう!

過去の自分に向けて一言メッセージを送るとしたら?

思ったより大人って好きに過ごしてよ～働くのも学ぶのも楽しいよ～って言いたいですね笑

保護者インタビュー



○保護者の声(52歳・子の旅立ちを応援する母ちゃん)

初めて「ここいろうhiroshima」を知ったきっかけは何ですか?

子どもが高1の時「自分には性別がない」と言い、同じ時期に学校からも人との距離感の問題を伝えられた。エソール広島の面接相談に行った時、あっキーが同席していてここいろうを紹介してもらった。

初めて交流会に参加したときの印象はどうでしたか?

初回はもう、6、7年位前の事。子どもと一緒に参加したが、私はずっと緊張したまま時間が過ぎていった。それでも、子どもが楽しそうにしている姿を見て、次回も参加してみようかな?と感じていた。

ここいろうと関わる中でお子さんやご自身のとってどんな変化がありましたか?

私は参加していく中でセクシュアリティの事で疑問や困った事があったら【ここいろうに相談すれば良いんだ】と安心できた。不安感が少しずつ減っていった。子どもは、私を通じて色々な情報を得て、【自分と同じ人が実際に居るんだ】と知って、【このままでも生きていける】という支えになったと思う。

お子さんが人生の節目を迎えた今の心境はいかがでしょう?

色々な人に支えてもらいながら乗り越えてきた日々は、決して無駄ではなく、今後の人生で役に立つ力になっていると信じています。その力を持って、自分らしく楽しんでほしいです。そして、私も自分のこれからの生き方を考えてみたいんです。

過去の自分に向けて一言メッセージをお願いします!

約7年前、自分には全く理解できない話に混乱しましたね。でも、逃げずに向き合って正解。ここいろうに出会って、時間はかかるけど親子で成長していきます。大丈夫、助けてくれる人はたくさんいるからね。



今回のインタビューを通して、ここいろうがユースにとって安心して自分らしく過ごせる居場所であり、保護者の方にとっても子どもやご自身の変化をともに感じられる場であったことを改めて実感しました。

進学や就職といった人生の節目を迎え、それぞれの道へと歩みだしていく姿は、ここいろうが大切にしてきた「信じて見守り、ともにいる」「安心してつながれる場づくり」を積み重ねてきたひとつの形であると感じています。

これからも、ここいろうhiroshimaは人生のさまざまな場面やタイミングで、ふと思い出してもらえる居場所として、活動を続けていきます。新たな一歩を踏み出した皆さんに、心よりお祝い申し上げます。改めて、おめでとうございます!

相談事業



ここいろチャット(LINE相談)

2025年3月からは相談員が4名となり、相談者のお話をゆっくりお聞きすることができたり、社会資源の情報提供がスムーズになるなど、相談体制の構築ができました。

昨年度からの大きな変化としては、保護者からのご相談が増えたことがあります。

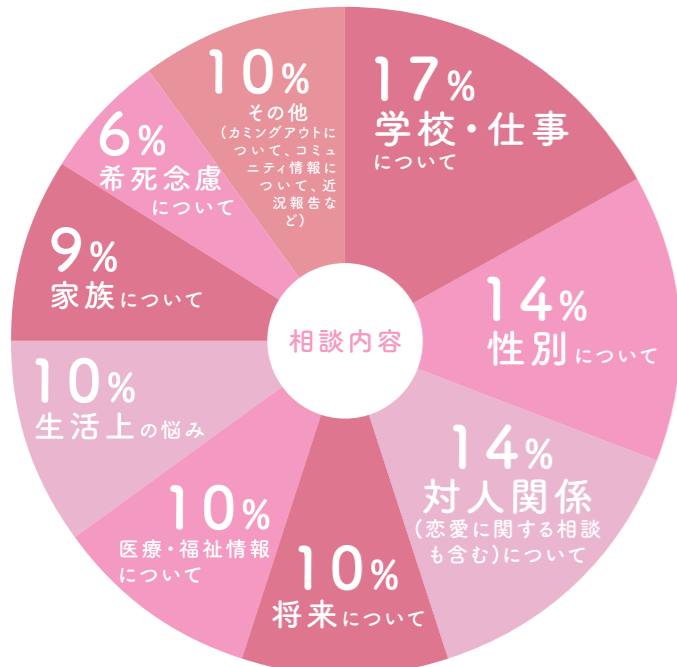
「ネットで相談先を検索したら出てきました」という声も多く、保護者の戸惑いや孤立感、必要な情報にたどり着かないといった困り感も見えてきました。

引き続き、年代や立場・居住地問わず、LINEで相談を受けながら安心できる関わりをつくっていきます。

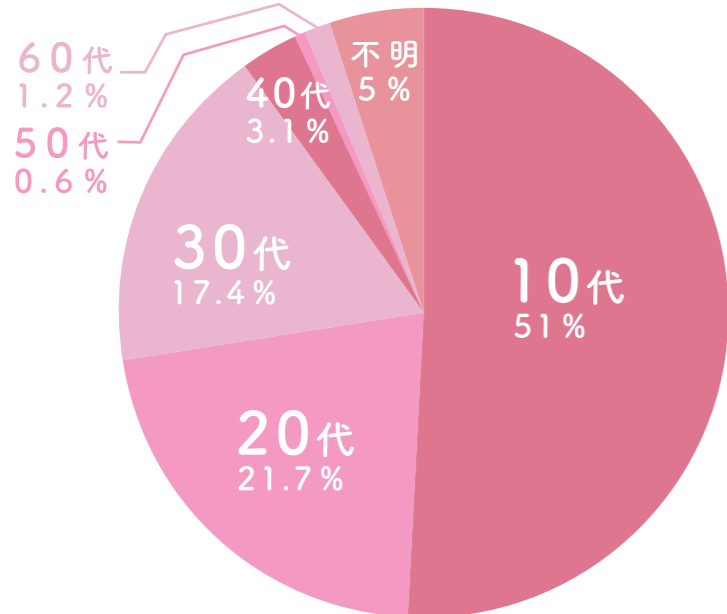
ここいろチャット登録者数
(2025年12月31日時点)

288名
前年度比+55名

相談内容の内訳(n=283)

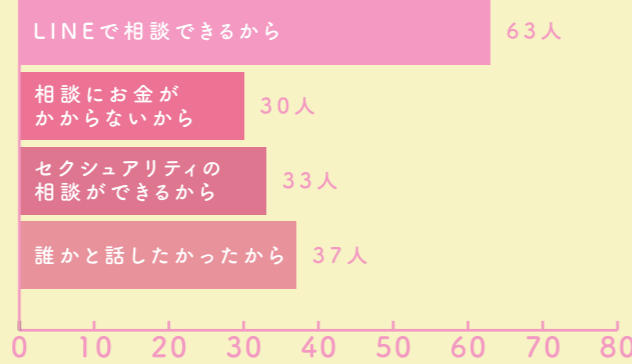


SNS相談利用者の年代内訳



アンケート結果(73件回答)

ここいろチャットを利用した理由 (複数回答あり)



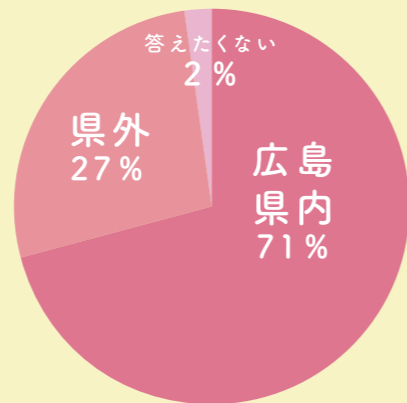
身近なLINEを使って相談ができることから、相談に対するハードルが下がっているのではないかと考えます。「誰かと話したかったから」という回答も多く、テキストでのやり取りであっても、「ひとりじゃない」と思えることが、孤独感の軽減につながっているのではないかと思います。

今後も利用したいと思いますか?



支援は単発で終わるものではなく、長期的な関わりが必要になります。そのため、「また利用したい」と思ってもらえることで、信頼できる関係性を築いていくことができます。

ここいろチャット相談者の内訳(n=31)



県外からの相談者も増加傾向にあり、LINEでやり取りを重ねた後にここいろの居場所につながるケースも出てきています。オンラインの相談と、オフラインの居場所でのサポートできる強みが活かされています。

相談者の声

◎前向きになるきっかけをくださってありがとうございます。また相談させてください。いつも丁寧に聞いてくださりありがとうございます。支えになります。

◎とても丁寧に寄り添って答えてくださるので、とても安心できました!また次回も機会があれば相談したいです。

◎無料で相談にのってくださり、ありがとうございました!話すうちに自分の中で整理できたり、情報を知ることができたので、ありがたかったです。毎日悩みながら過ごしていますが、少し楽になりました。ありがとうございました(^ ^)

◎話しやすくて、いっぱい話し聞いてくれて良かったです! 普段こういった相談あまりしないので、楽になりました! ありがとうございます!

◎あまり上手くチャットを打てなかったけど、優しく聞いてくれて嬉しかったです。ありがとうございました。

◎色々な話を聞いていただき、自分自身が強くなれていて助かります。

◎いつも悩みを聞いて下さってありがとうございます。相談できる場所があるのはありがたいです。いつもありがとうございます。

◎初めて会話をしたのでまだ明確に自分の気持ちが晴れた訳ではないけど、最初から優しい対応や明るい対応をしてくれて、話しやすかったです。

相談員の声

2025年3月から関わってくれている新たな相談員にインタビューしてみました!

どんな想いで相談に関わっているのかを知っていただけると嬉しいです^ ^

相談員インタビュー

①ここいろチャットの相談員として仲間になった理由を教えてください。

ここいろの活動に参加する中で、自分も何かお役に立てればと考えていました。そして他の機関での相談員経験を重ね、ここいろ相談チャットにも仲間入りさせていただきました。

②日々、相談者のさまざまな気持ちに向き合っているとありますが、相談員としてのむずかしさややりがいを教えてください。

「むずかしいな…」と感じるのは、やはりどう返信するかですね。相談してくださった方が気楽に思いを話せるようにするにはどうすればいいだろう?といつも考えながら返信をしています。

やりがいは、継続して相談に来てくださる方がいることです。初めは勇気を出して相談に来た方が徐々に安心してお話してくださる様子を見ると、「この場は大丈夫」と認識してくださったこと、相談する場を確保できているということにこちらも安心します。

③相談員として、相談窓口の意義はどのように感じていますか?

何か困っていたり悩んでいてもどうすればいいのかわからない方も多いのではないかと思います。そんな時にとりあえず相談できる場があれば、気持ちを整理できたり解決策が浮かんだり、何かしらの糸口になるかもしれません。

また、病院や支援機関にいきなり行くのはハードルが高いという時にも、ひとまず相談窓口へ行くということができるかと思っています。

このように「とりあえず」「ひとまず」でも相談できるのが相談窓口の良さであり意義なのではないかと思っています。

対面による個別相談

ここいろhiroshimaでは、LINE相談だけでなく対面での個別相談も受け付けています。(直接対面もしくはzoomを使用します)

交流会に参加する前に、ゆっくり相談したいご家族や緊急で相談がしたいという方、広島県外で遠方にお住まいの方など居場所に参加することが難しいご家族からの相談があります。

「住んでいる地域に相談できる場所がない」という声もあり、ご家族で孤立してしまっているケースもあります。

LINE相談の「ここいろチャット」と、対面の個別相談という二つの相談方法があることで、相談者にとっても安心できる方法を選びながら接点を持つことができるのではないかと思います。

啓発活動 + 受託事業・イベントなどの紹介コラム

「下関市いのちの日」に講演をさせていただきました

2025年4月13日に、下関市立日新中学校にて講演をさせていただきました。2005年4月13日に下関市内の中学校で、いじめを受けて自殺をした生徒さんの命日に合わせて、下関市内のほとんどの学校で毎年4月13日を「下関市いのちの日」として定めて授業や講演が開かれるそうです。

私たちの講演は「LGBTQ」というテーマが切り口となりますが、生徒さんに届けたのは、「自分らしく生きること」「あなたはひとりじゃないだよ」というメッセージです。

20年前に亡くなった生徒さんは、生きていれば私たちと同じくらいの年齢です。その生徒さんに想いを馳せながら、今を生きている子どもたちにお話させていただきました。

人は安心できるつながりがもてずに、未来に希望を持ってないとき、自分の人生を諦めたくります。私たちが今こうして生きてお話をさせていただけるのも、安心できるつながりができて、少し先の未来に希望を持ち始めたからなんだなって改めて感じました。



だからこそ、今すでに出会っている子どもたちと、これから出会うであろう子どもたち「きっと大丈夫」「自分はひとりじゃない」と思えるような活動をしていきたいと思っています。

ひろしまプライドパレード2025が開催されました



もに広島市の街中や本通りを歩きました。広島という土地で、性的マイノリティが日常を生活していることを、あらためて「特別ではないもの」として感じられる時間となり、日常の延長線上にこのパレードが自然に存在していることが印象的でした。沿道からもあたたかな声援が寄せられ、大きな励みとなりました。

ここいろhiroshimaを立ち上げた2018年当時には想像もできなかった光景ですが、多くの方々のご協力やご支援、協賛があってこそ実現したパレードであり、広島にもたくさんの理解者・応援者がいることを知ってもらえる機会になったのではないかと感じています。

記念すべき第1回目のパレードに関わることができた経験を胸に、この日の出来事が多くの人々の歩みを支えていくことを願っています。



2025年10月11日(土)、広島で初となる単独のプライドパレード「ひろしまプライドパレード2025」が開催されました。実行委員会が結成され、約1年間にわたる準備期間を経て当日を迎えました。ここいろhiroshimaとしては、あっきーがイベント登壇者およびブース出展者として、さーちゃんが実行委員メンバーとしてボランティア部門に関わらせていただきました。

真夏を思わせるような快晴のもと、会場となったアリスガーデンには約300名の方が集い、それぞれが思い思いに過ごす姿が見られました。10月11日は国際カミングアウトデーでもあり、「今日はわたしを歩いてみたい」というコンセプトのもと、仲間存在を感じながら、ありのままの自分や、ありたい自分を表現できる時間が広がっていました。

パレードでは、参加者の皆さんと



広島県東部(福山)で相談会を実施しました

公益財団法人広島県男女共同参画財団(エソール広島)からの業務委託により、9月23日(火・祝)に福山にて「LGBT無料相談会」を実施しました。

これまでエソール広島主催で、広島市にて開催していた相談会を、「東部の方にも届けたい」という想いから、この度委託を受けての実現となりました。

個別相談(50分×3枠)とグループ相談のブースを設け、相談者とゆっくりお話ができたり、グループ相談で保護者同士のつながりが生まれる機会となったことも嬉しかったです。

これまで、「東部での交流会や相談会の実施をしてほしい」と声を受けながらも、なかなか実現できずにいたので、とても貴重な時間となりました!

福山市での相談会を開催してみて、必要な支援や情報が届かずに困っている方がいるという現状を知ることができたので、他団体や行政との連携を図りながらセーフティネットを広げていきたいと感じました。

エソール広島で夏の研修会を実施しました

2025年度は、公益財団法人広島県男女共同参画財団(エソール広島)からの業務委託により、7月31日(木)に【令和7年度 男女共同参画公開講座「知ってほしい性の多様性～実践編～」】を実施しました。

本講座は、昨年度実施した基礎編の内容をブラッシュアップし、より実践的な視点を深めることを目的として開催しました。講師には、広島修道大学人文学部教授の河口和也さんと、広島市立安西中学校(※2026年3月現在)養護教諭の蓮沼如月さんをお招きし、教育現場の声や具体的な取組事例を共有していただきました。

第一部では、「性の多様性をめぐる教育現場の声～教員の疑問から考える～」をテーマに、河口先生とともに、学校現場の教職員から日頃寄せられる質問や悩みに答えながら、教育現場における課題や視点について考える時間となりました。第二部では、「性の多様性を日常化するための取組事例

～養護教諭の視点から～」をテーマに、蓮沼先生より、学校内で性の多様性に関する取組を始めた経緯や、実際に校内で行われている具体的な実践についてお話いただきました。質疑応答の時間には、個別対応の工夫や実際に相談を受けた際の対応など、参加者同士が学びを深める時間となりました。

当日は、会場参加25名、オンライン参加39名、オンデマンド配信(後日視聴)141名、のべ205名の方に受講していただき、学校現場をはじめとした多くの方々に、性の多様性について学ぶ機会を届けることができました。



ここいろhiroshima、広島修道大学人文学部教授 河口和也さん、広島市立安西中学校(※2026年3月現在)養護教諭 蓮沼如月さん

たくさんの方に支えていただきました。
(2025年1月1日～2025年12月31日まで)

マンスリーサポーター人数 **86名**
単発寄付者 **のべ141名**
(2月24日～3月23日実施のクラウドファンディングご支援者含む)

みなさまのご寄付のおかげで、2025年も子どもたちや保護者のための居場所づくり、相談事業に取り組むことができました。改めて、お礼申し上げます。

法人2期目である2025年は、「希望の種」マンスリーサポーターとして86名の方に月額寄付で支えていただきました。単発ではのべ141名の方にご支援いただきました。

「ここいろに出会えて本当に良かったです。救われたことが沢山あります。これからも応援してます。」「ここいろの活動のおかげで、未来を描ける子どもたちが増えると思います。安心して相談できたり、ここに居て良いんだって思える場所であり続けて欲しいと思います。これからもずっと応援しています!」「いつも応援してます!これからの世代の人達に、生きやすい社会のため、私も一緒にがんばります!」と、ご寄付とともに心強いメッセージをいただきました。

みなさまからのご寄付があったからこそ、子どもたちや保護者の声に継続的に寄り添うことができます。また、2025年度は人件費をかけることで安心して活動運営ができたことや、LINE相談スタッフの増員による支援体制の基盤をつくることができました。

法人3期目は、これまで同様に居場所づくりを継続しながらも、LINE相談の時間の拡充や個別相談の機会の提供を増やしていきたいと考えています。ここいろhiroshimaが、子どもたちにとって自分らしい人生を歩んでいくチカラが育まれる場所、子どものことを一緒に信じて見守る存在がいる場所でありたいと思っています。そんな「安心できる拠り所」を、みなさまとつくりたいと思いますので、これからもご無理のない範囲でご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

高畑退任のご挨拶

いつも、ここいろhiroshimaの活動を応援してくださり、誠にありがとうございます。
このたび私事ではありますが、我が家に子どもを迎えるというライフステージの変化に伴い、2025年12月末をもって共同代表理事および運営・活動から退くことを決断いたしました。

2018年にここいろを立ち上げてから約8年間、多くの方との出逢いに支えられ、活動を続けてくることができました。関わってくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

来期以降のここいろhiroshimaは、新しい運営体制のもとで活動を継続していきます。私は団体からは離れますが、これからは一人の応援者、サポーターとして、ここいろの歩みを見守り、応援していきたいと思っています。

これまで本当にありがとうございました。
ここいろhiroshimaのこれからの歩みが、ますます豊かになることを願っています。

高畑 朔

なお、今回の決断に至る経緯や思いについては、noteにまとめています。
よろしければ、こちらのQRコードよりご一読ください。
【ご報告】ここいろhiroshimaを離れるという選択と、希望のボタン
<https://note.com/cocoirohiroshima/n/nfc14bd566c48>



決算報告書

損益計算書

自 令和7年 1月 1日
至 令和7年 12月 31日

一般社団法人ここいろhiroshima (単位：円)

I 売上高		
売上高	2,587,021 ①	
寄付金収入	2,637,497 ②	5,224,518
II 売上原価		
居場所事業	75,974 ③	
相談事業	413,394 ④	
啓発事業	1,470	490,838
売上総利益		4,733,680
III 販売費及び一般管理費		
役員報酬	1,860,000 ⑤	
法定福利費	245,741	
外注費	1,402,829 ⑥	
交際費	6,688	
会議費	50,617	
旅費交通費	141,010	
通信費	105,441 ⑦	
消耗品費	51,183	
支払手数料	173,351 ⑧	
地代家賃	450,000	
租税公課	400	4,487,260
営業利益		246,420
IV 営業外収益		
受取利息	1,938	
雑収入	3,175	5,113
経常利益		251,533
税引前当期純利益		251,533
法人税、住民税及び事業税		82,800
当期純利益		168,733

① 売上高

啓発事業と受託事業による収入となります。

② 寄付金収入

2月に実施したクラウドファンディング(寄付総額125万円)を含む寄付金収入となります。

③ 売上原価 居場所事業

居場所事業にかかわる会場費や茶菓子、消耗品の購入費用です。

④ 売上原価 相談事業

LINEシステムにかかる費用や相談員への業務委託費となります。2025年度は相談員を1名増員することができました。若者からの相談内容が複雑化するなかで、専門性が必要な対応を求められるケースも増えてきたため、今後は相談員に対するベースアップを進めていきます。

⑤ 役員報酬

2025年3月より共同代表理事2名の給料として月額8万円を設定しています。昨年度より3万円ベースアップさせていただきました。みなさまからいただくご寄付を人件費に充てさせていただくことで、時間の確保ができ、安定的な活動を続けることができました。

⑥ 外注費

講演会などの啓発事業の収入の一部を実動ベースで外注費として講師担当者に支払っています。その他、動画撮影やホームページシステム修正などの業務委託費が含まれています。

⑦ 通信費

寄付決済システム料や郵送費となります。

⑧ 支払手数料

会計サポート費用、外部講師への謝金となります。

私たちのビジョン



私たちが実現したい世界。

それは、私たちにつながる人々が自分の10年先を想像でき、希望をもてる社会をつくることです。

人は、安心できるつながりがもてず、自分の未来が思い描けないとき、孤立と無力感から自分の人生を生きることを諦めたくになります。最悪の場合、自ら命を絶つ選択をします。

そんな風に自分の命の灯火が消えかけている時、支えになるのは、「信頼できる仲間」と「少し先の未来を見せてくれるロールモデル」という存在です。

私たちは自分の未来に希望が見いだせない中、仲間とロールモデルに出会い関わることで「自分はひとりじゃない」「大丈夫かも」「もう少し生きてみよう」と少しずつ思えるようになりました。

そして、「少し先の未来」を想像しながら「なりたい自分」になるために、いま自分ができる行動を積み重ねていきました。

ありのままの自分で人と関わる、ありたい性で働く、本当に好きな人とパートナーシップを築くなど、過去の私たちにとっては想像もできない未来でしたが、「少し先の未来」を積み重ねていくことで、今の私たちはその未来を生きています。

だから私たちは、自分自身を救ってくれた存在のようになることで、子どもたちが自分の「少し先の未来」に希望がもてるように、子どもたちに関わる大人が安心して子どもたちの成長を見守れるように、ともに歩いていく団体として活動しています。

一般社団法人 ここいろhiroshima

現住所：〒730-0045
広島市中区鶴見町2-24 1階

代表理事：當山敦己（2026年1月より）

理事：石田優一朗・木谷幸広・藤井恭子

銀行：GMOあおぞらネット銀行 法人営業部支店 普通 1890098 ジャ)ココイロヒロシマ

寄付用銀行 ご寄付のお振込先

ゆうちょ銀行からお振り込みの場合		ゆうちょ銀行以外からお振り込みの場合	
記号	15190	銀行名	ゆうちょ銀行
番号	49978321	店名	五一八(ゴイチハチ)
□座名義	ここいろhiroshima	□座番号	普通4997832
		□座名義	ココイロヒロシマ

デザイン・イラスト：AKO



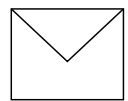
Website



Instagram



LINE



cocoirohiroshima@gmail.com

月額寄付『希望の種』サポーター募集中！



詳しくはこちらより
ご覧ください

1000円 / 月のご支援で

「10年先を想像でき、希望を持てる社会」を創る
『希望の種』マンスリーサポーターになりませんか？